

北広島市におけるボールパーク構想について

～「世界がまだ見ぬボールパーク」が生み出す「究極の地方創生」～

笹原 拓己 北広島市 企画財政部 都市計画課 課長

1. はじめに

令和5(2023)年3月30日18:30北海道日本ハムファイターズ(以下、ファイターズ)の開幕投手・加藤選手が第1球を投じた!

北広島にとって新たな歴史の始まる瞬間である。

「世界がまだ見ぬボールパーク」が生み出す「究極の地方創生」について、これまでの経緯等をご紹介します。



図 北海道ボールパークFビレッジ 完成予想図

2. 長期未着手の運動公園がプロ野球の本拠地に

北広島市は道都札幌市に隣接し、札幌市中心部と新千歳空港の中間に位置し、JR千歳線、道央自動車道、国道などが市内を貫き交通の要衝となっており、令和4(2022)年12月末現在の人口57,352人、世帯数28,198となっています。

この度、北海道ボールパークFビレッジが整備された地区の最初の構想は半世紀ほど前にさかのぼります。昭和40(1965)年代後半に野球場や陸上競技場等を配した運動公園として計画され、その後、平成5(1993)年に「ひろしま総合運動公園」として37.4haが都市計画決定され、何度か整備計画はあがるものの実施には至らず、近年は長期未着手による見直しも視野に入れなければならない状況でした。

平成20(2008)年代には整備実施の準備を行いましたが、政権交代により補助金が見直され、やむなく中止とした経緯もあり、今となってはここが運命の分かれ道だったのかもしれません。

平成28(2016)年6月にファイターズの新球場構想に、本市が誘致活動を行っていく申入れを行い、12月には新球場構想の提案を行いました。結果は平成30(2018)年3月に内定、10月に正式決定となりました。

しかし、ここから大きな壁に突き当たることになるのです・・・公園区域は市街化調整区域で、そこに3万人が収容できる球場、商業施設、ホテル等を建築可能にするには・・・

これまでの線引きの手法として、市街化区域に編入するための人口や商業のフレームに拡大の要素は無

く、市街化調整区域のまま地区計画とするのか、前例のないものに当時の都市計画担当者達は頭を抱える事となりました。

市街化区域への編入にあたり、地域活性化効果が北海道全体に広く波及することが見込まれる、都市政策上必要な土地利用であること等を整理し、関係機関と連携した上で市街化区域に編入することとなりました。ボールパーク周辺の都市計画変更については、令和元(2019)年から2(2020)年にかけて道路や下水道等の都市施設の変更を行い、令和3(2021)年3月に約39.4haを市街化区域に編入し、用途地域を商業地域に指定しました。

また、多くの屋外広告物の掲出が想定されるため、北海道から権限移譲を受け、令和4(2022)年6月から「北広島市ボールパーク地区等の区域内における屋外広告物の規制に関する条例」を施行し、市内外から多くの人々が訪れるため、より見やすく分かりやすい、広告景観を整備していきます。

町名整備についても令和5(2023)年1月から「Fビレッジ」とし、アルファベットと片仮名の町名は富山県高岡市ICパークに次ぐ、全国2例目となりました。

新球場と共にこの3月に開業したのは、宿泊施設や認定こども園、商業施設、レジデンス等です。今後10年以上かけて、新たな施設や新駅などが整備され、野球の試合以外にも楽しめる場所が増えていきます。



写真 エスコンフィールド竣工式 令和5(2023)年1月5日

3. ゴールはまだ先

市長の上野は今年の年頭に「Fビレッジの開業はゴールではない、駅伝に例えると開業までが往路、ゴールに向けた復路がこれから始まる。」と挨拶しました。

今後は、更なる官民連携、交流人口や定住人口の増加、経済活動を促進させ様々な波及効果が期待されます。「世界がまだ見ぬボールパーク」が生み出す「究極の地方創生」の第2ステップが始まります。

まさに、5回終了グラウンドが整備され、6回表主審の「PLAY!」がコールされました!